

周りの人をフワッと温かく包み込む優雅な雰囲気、華やかな体つきからは想像もつかないほどの大きな声で教える田中千鶴子さんの紹介です。三人姉妹の長女として大阪の商家に生まれ育ちました。

女は安全第一

父は、男の子なら世界中どこへでも飛んでゆけ、しかし女の子は危険なことはするな、というタイプで、例えば信号待ちをしていて少しでも車道に近づくだけで大声で注意するような人

今回は尼崎日本語教室設立以前から中国残留孤児の支援を続けられている田中千鶴子さんを紹介します。

の記事が大きく載っていたのが強く心に残っていたので、岡本教室に入会したの、その後尼崎教室ができたので移りました。中国語を学び始めましたが私の場合元々語学が苦手という思い込みがあるためか続きませんでした。

の死後広島から貝塚へ移り、そこでしばらく小学校の代替教員や塾講師などいろいろアルバイトもしました。新聞で残留孤児支援のためのが神戸・岡本にできると知り、以前に肉親捜し

職業婦人を好まない 教員免許を持っていて結婚するまで7年ほど小学校の教員をしていましたが、夫の親元は女が働かないとんでもないという考え方で、働きませんでした。夫の後を継ぎました。

新聞で支援活動を知る

新聞で残留孤児支援のためのが神戸・岡本にできると知り、以前に肉親捜し



梅グループの学習者を支援する田中千鶴子さん

私の支援が少しでもお役に立てればと思います。教室は私の居場所 日本語教室が学習者の居

場所になってほしい、多くの人にその存在を知ってほしいと思っていました。自分が病気になるまで教室にいられた。もう復帰はできないだろうと、諦めの気持ちで自宅療養していました。でも数ヶ月後、嬉しいことに体調が戻り、再びボランティアとして活動できるようになる、生き生きしている自分があるので

ご案内

コスモスの会新年交流会 とき・2月7日(土) 午後1時~4時 会場・サンビック尼崎 3階ホール 参加費・1000円 (会員500円) 料理作りに参加を希望される方は10時までにお越しください。準備の都合がありますので、事前の申し込みをお願いします。

編集後記

かけはし8号の編集をしながら思い出していた。コスモスの会が初めて市民まつりに参加した思い出。会の活動PRと学習者に市民とのふれあいの場を、と考え実施した。お客さんから「こんな美味しい餃子を食べたことがない」との言葉をいただいた。この一言を思い出して勇気が湧いてきた。今年もよろしくお祈りします。(Y)

頑張る二世たち

日本語能力試験1級に合格した 石原春子さん

おめでどう！ バラグループの石原春子さんは、昨年6月に行われた日本語能力試験の1級を受け、見事合格されました。尼崎日本語教室では、初めての快挙だそうです。本当におめでどうございます。頑張り屋の春子さん 春子さんは1964年ハルビン市阿城で生まれ、小さいころから勉強が大好きだったそうです。中国では大手会社で経理の専門職に就いていました。



教室でボランティアといっしょに学習する石原さん

うな仕事に就けず苦労しました。10年ほど前に、運転免許をとるために勉強し、まず日本語能力試験2級に合格、続いて運転免許も取得しました。今回、宝塚教室での勧めと支援もあって1級に挑戦しました。そして難しい勉強を頑張った1級合格は、仕事に有利であるだけでなく、春子さんの人生において、

きっと大きな自信となったことでしょう。 優しさで心の強さ 一見とても恥ずかしがりやに見えるが、実は芯のある人なのです。 秋のバス旅行の車中では、優しい声で中国語の歌を歌って盛り上げてくれました。文化教室に参加するときは、日本語の自由な学習者のために通訳をしてくれます。また中国語サロンでは、中国語が初心者であるボランティアのために時間を割いて丁寧に教えてくれます。

日本語教室 こぼれ話

11月、バラグループでは「様態」と「伝聞」を学習した。「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」の違いを学習者に理解してもらったのはなかなか難しそう(様態)。授業を担当するボランティアにはかなりの努力と工夫が求められるそう(伝聞)。(Y・W)

これから チャレンジ!

今は、次なる学習目標を探していることとです。学習することが生活の一部になっていくんですね！(拍手) (聞き手 吉村清美)

2015年明けましておめでどうございませう

今年もよろしく お願いいたします



ハルビン市街の朝

ハルビンの街は1900年頃、当時のロシアによって東清鉄道の建設基地として、建設されました。アールヌーボーの建築様式で作られた街並みはかつて東洋の小パリと言われていました。

コスモスの会 尼崎市民まつりに出店!

10月12日、日曜日、心配した台風も影響なくこの上ない晴天にめぐまれた朝となり、当会は初めて尼崎市民まつりに参加した。

調理組と売店組に分かれて

朝8時30分、予定通り、調理と売店の2組に分かれ、調理組は前日に仕入れた食材の仕分けをし、餃子班、大学芋班に分かれ、大量調理を開始。売店組はのぼり旗や看板を立て、餃子を描いたチラシ、値段表などで店頭を飾り、釣銭なども用意した。しかし、何分初めての体験、はたしてお客さんは来るのかなど不安を口にしながら、とりあえず寄付してもらったさつま芋や栗、手作り小物・ストラップなどの商品を店頭に出した。その頃、調理組は餃子の餡作りや切ったさつま芋の油揚げ作業で汗だくになっていた。

商品が届かない

10時、売場では餃子を湯がくお湯を沸かし待っているのに目玉商品の餃子はなかなか届かない。売り場の前を通るお客さんの数がどんどん増え、覗いていく。餃子の鍋を見ながらあせりが出てい



餡作りに忙しい餃子班

た。その間、手作り小物・ストラップがたくさん売れた。水餃子も大学芋も大好評やがて大学芋と、包んだ餃子を入れたコンテナが届くと、売店の前には人垣ができていくようになった。水餃子の湯がき作業、そのバック詰めに大わらわになりながら、「中国残留孤児が作る中国本場の水餃子はいかがですか」「おいしい大学芋はいかがですか」と、チラシを配布し、メガホンでの宣伝も交えて販売



コスモスの会の店舗

した。調理組が包んだ餃子と大学芋パックは調理場から売店へ何度も運んだ。午後1時頃、調理組からこれが最後というコンテナが届いた。お客さんは続いていた。水餃子が美味しかったからと2度買いに来た人もいた。1時半、予定より早く、すべて完売だった。 もう少し売れたかった もう無いのといわれながら店じまい。水餃子8個入り、大学芋400g入りそれぞれ200パック以上売上げた。当日の参加者は教室のスタッフ・学習者合わせて40人だった。 反省とたくさんの提案 10月21日には学習時間を使って全員で反省会をした。市民まつりの担当者が、餃子も大学芋も美味しく人気良かったこと、経費が予想以上かかったこと、調理組の人は市民まつりを見るのができなかったのが残念だったなど、取り組み全般の詳細な報告をした。 すると、日頃、学習時には声の小さい学習者から一斉に手が挙がった。水餃子の大きさを揃えるべき。もう少し沢山作る。ミンチ肉の量が多い。さらに、値段が安すぎた。パックに入れる数が多い。などなど、たくさん提案があった。次回が楽しみです。(越智 徹)